

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年6月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670101973
法人名	医療法人明輝会
事業所名	グループホームよしの村
所在地	鹿児島市吉野町3823 (電話) 099-244-4412
自己評価作成日	令和3年2月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和3年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さくら棟は令和3年6月で開所から20年、すみれ棟は7月で18年を迎えることになり、地域の自治会とも長年関係を築いてきました。令和2年度は、地域の行事が中止となり、六月灯の灯ろうの絵を描く機会が無くなってしまいました。また、保育園との年2、3回の交流も、感染症予防の機運が高まる中、中止して、再開できる状況を待っているところです。避難訓練に関しては、地域の方との連携を含めて、エアでの実施を続けています。幸い、敷地が駐車場を含めると散歩等をするのに良い広さであるため、外出を自粛している期間も、普段通り、ホームの建物から庭へ出て外気浴、散歩、外でお茶を飲んで団らんするなど、閉塞感を感じないような過ごし方ができる環境にあります。ご家族との交流は、15分までの面会、電話、面会自粛中はガラス越し面会を実施し、電話連絡等の機会に様子をお伝えするなどに努めています。医療連携については特に変わることなく、訪問での定期診療と急変時の検査受診や入院の支援、訪問看護による週1回の健康チェック時の情報共有によって、適時適切な支援を行うことができています。外部との交流が限られる中、職員は利用者の皆さんが美味しく食べ、体と頭を動かし、清潔に過ごせるように、笑顔を保って日々の生活を守っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市吉野支所から2km程離れた吉野地区の閑静な住宅地に平成12年に開設されており、近くには法人母体の医療機関や歯科医院、金融機関、商店、個人住宅等があり、利便性は高い。

開設以来、地域との交流に努め、運動会や六月燈等への参加や保育園児との交流、ホームのイベントや防災訓練に住民の参加が得られる等、円滑な交流が図られてきているが、昨年からは新型コロナウイルス感染症の影響で地域のイベントの殆どが中止となり、利用者の園外での交流も減少している。そのような状況ではあるが、周辺の散歩時の地域の人との挨拶や、利用者が作成したエチケット袋を年3～4回中学校に届けたり、家族との面会や通院、一時帰宅等を感染症予防に配慮しながら取り組んでいる。管理者は地域の会合に出席して情報の把握に努め、清掃活動への参加や施設見学、看護学生等の実習生の受け入れ、地域の人から寄せられる介護保険や認知症ケアに関する相談に丁寧に助言するなど、可能な限り地域との交流に努めている。人出の少ない公園等にドライブで出かけて桜やコスモスを見物したり、ドライブ時に弁当を購入する等工夫して利用者の気分転換にも努めている。

管理者及び職員は理念に沿って、利用者が地域と触れ合いながら、その人らしく生きがいのある平穏な暮らしとなるように、一人一人の思いに寄り添い、尊厳を大切にしたい利用者主体の支援に日々努めている。理念の周知と実践を常に意識し、法人及びホーム独自の理念を玄関に、また、ケアの具体的姿勢を長期目標や年度目標に設定してホールに掲示しており、日常的にケアの振り返りを行っている。職員は各自の目標も設定して日々の業務に従事しており、管理者は個人面接時等に目標の達成状況等を確認しながら助言するなどスキルの向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域の思いやりに応え、地域に必要とされる存在として、地域の輪を大切にします」を理念に掲げお互いの行事に参加している	「地域の中の事業所」を意識した理念を掲げ、利用者が地域や家族と触れ合いながら、その人らしく安心して生活出来るように寄り添う支援に努めている。理念は法人理念と共に玄関に、また、長期目標及び年度目標もホールに掲示している。職員は理念に添った各自の目標も設定して日々業務に取り組んでおり、管理者は達成状況を把握しながら助言等に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、お互いの行事に参加し、交流を深めている	新型コロナウイルス感染症の影響で地域のイベントの多くが中止となり、また、買い物やホームの行事、保育園児との交流、ボランティアの受け入れも自粛している状況ではあるが、周辺の散歩時には地域の人と挨拶を交わし、ガラス窓越しや園庭での面会、施設見学、実習生の受け入れ、利用者が作成したエチケット袋を中学校に届ける等、感染症の予防に配慮しながら交流に努めている。地域の会合や清掃活動に参加し、住民から寄せられる認知症や介護保険に関する相談等にも丁寧に対応している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議、認知症サポーター養成講座を開催し、理解を深めてもらえるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、議事録をスタッフは回覧し、会議の内容を把握している	会議は定期的開催し、家族や住民代表、民生委員、行政職員等が出席して、ホームの行事や利用者の状況等を報告し意見交換して改善を図ってきたが、昨年度より新型コロナウイルス感染の予防に配慮して一堂に会することは控えて資料を委員及び家族に送付し、確認書に意見や要望等を記入して返送してもらっている。出された要望等は職員会議等で検討してサービスの改善に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者への聞き取り、生活保護利用中の入居者についてはやり取りがある	介護保険の更新や各種制度の申請、報告に関すること、ホームの運営や感染症予防に係る相談、生活保護受給者の処遇に関する協議等を行い、指導や助言をもらうなど、市担当者とは日常的に協力関係を築いている。リモートによる市主催の会議や研修にも参加し、新型コロナウイルス感染症予防に関する報告や協議も密に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、勉強会を開催し、知識を得て、身体拘束をしないケアを実践している	身体拘束予防・廃止委員会が年4回開催され、身体拘束や高齢者虐待についての研修も計画的に実施して認識を共有している。日頃から不適切な言動が無いように職員自身が常に振り返りを行ない、また、職員間でも注意し合って、利用者主体の自由な生活が過ごせるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、勉強会を開催し、虐待について話し合ったり、意見を出し合い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだこともあるが、活用している方がいないので、スタッフの理解は少ない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明、同意をもらい契約をしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族にも案内して運営推進会議に参加してもらい、意見を反映している	利用者の思いは日頃の会話や仕草、サイン等で理解し、家族からの意見や要望は面会や電話、手紙、運営推進会議資料、園便り等で利用者の状況を伝えながら把握して改善に繋げている。現在、新型コロナウイルス感染予防に配慮して家族会等は中止し、面会も世間の感染状況を把握しながら場所を窓越しや園庭にするなど工夫して実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談時、ケアカンファ等で話す機会がある	管理者及び職員は日頃からコミュニケーションに努め信頼関係を構築しており、日常の業務の中や申し送り、職員会議、ケアカンファレンス等で意見、要望等を聞き取り、個人面談も実施して改善に取り組んでいる。スキルアップを図る研修を実施し、勤務シフトには個人的事情も配慮する等、働きやすい職場づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	e-workコンシェルジュで人事考課し給与に反映されている		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内の研修は、職員全員が受けられるように調整している 外部研修は職員が学びたい研修が受けられるように勤務調整している		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	外部の同業者と、交流する機会 はほとんど作れていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供書、サマリーで情報収集し、本人、家族に聞き取りしながら関係を作るようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、家族に話を聞き、安心して入所していただけるように関係作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスが利用できることも説明し、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることは見守り、できないことはケアすることで協力しながら関係を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診、外出等ご家族が対応したり、面会時に近況を伝えて本人の状態を把握してもらっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、電話がある時は、次回につながるようお願いしている	利用者毎の馴染みの情報を把握して、通常は近辺の散歩や買い物や通院、一時帰宅、外食、墓参等を家族の協力を得ながら意向に沿って支援しているが、現在は新型コロナウイルスの感染予防に配慮して買い物や外食、外泊等は控えてもらっており、家族とは短時間の面会や電話、手紙の取り次ぎ等で状況を伝え、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、語り合ったり、家事、散歩を一緒にしている場面がある		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了した時点で、関係は途切れている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、希望をグループホームで出来る限りのことはしている	利用者の日頃の会話や仕草、表情等から思いを把握し、利用者主体の安全で生きがいのある暮らしを家族の意向も伺いながら支援している。利用者が希望する趣味（ラジオやテレビの視聴、カラオケ他）やテーブル拭き、配膳、園庭の草取り、菜園での花やさつま芋等の植え付けや収穫作業の取り組みを残存能力に配慮しながら支援し、実施後には達成感が得られるような言葉も添えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に話を聞いたり、情報提供書等で情報収集している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを大切にしながら、本人の状態に合わせたケアができるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし、ケアプランの切り替え時、状態が変わったときは、ご家族とカンファレンスし計画作成している	本人・家族の思いを把握し、主治医や理学療法士の指示やモニタリング及びカンファレンス時の職員の意見等を基に、利用者主体の介護計画書を作成し利用者及び家族にも理解してもらっている。ケアの実施状況は「業務日誌」「個別支援日誌」等で共有している。定期的な見直しに加え利用者の状態変化時には計画を変更する等、実態に沿った計画で改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画を把握しながら個別記録したり、日誌で情報共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科訪問診療、訪問マッサージ、訪問理容室をサービスに取り入れている		
29		○地域資源との協働 地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物で利用している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し24時間対応できている	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しているが、殆どの利用者が協力医療機関を主治医としており、月2回の訪問診療と歯科の訪問診療や週1回の訪問看護も実施している。他科受診は主に家族が実施し、状況によりホームも対応しており、協力医療機関との24時間医療連携の体制も構築して適切な医療が受けられている。利用者の病状や受診結果等は家族にも密に報告して状況を共有しており、利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問連携時、相談伝達し、適切な支援ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	通常は管理者が訪問し、情報交換している。今年はコロナの影響で病院訪問ができないケースがあった		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話をし家族の意向を聞いている。重症化した時は、主治医から説明してもらったり、医療と連携して対応している	重度化や終末期に対する指針を整備し、入所時に本人や家族に説明して理解を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ家族の意向を聞き取りながら、可能な限り希望に沿った支援に取り組んでいる、看取りの実施後は振り返りや意見交換を実施して職員の不安感の軽減やスキルアップに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、消防の救急訓練があり、マニュアルに目を通している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を実施し、反省点を話し合っている。地域の方の参加もある</p>	<p>災害時の対応マニュアルを整備し、消防署の協力を得て夜間発生も想定した火災訓練と消防署職員による研修を実施している。これまで避難訓練や焚き出し訓練には地域住民の協力も得られていたが、今回はコロナ禍に配慮してホームの職員と利用者だけで実施している。職員は日頃から災害事例を話題にするなど防災への意識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し懐中電灯、卓上コンロ、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けてはいるが、配慮に欠けた言葉かけ、親しさが行き過ぎた言葉かけになることもある	利用者の人格や誇りを損ねる事の無いように、計画的な研修の実施や日常的にケアの振り返りや意見交換等で認識を共有し、利用者の背景や習慣等にも気遣いながら、自己決定を尊重した支援に努めている。衣服の交換や排泄、入浴時の声掛けは羞恥心にも配慮して適切な声のトーンや言葉遣いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような言葉かけを意識している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごせるように支援したり、今日は何をしたいか聞いて希望に添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人ができる方は、自由にしてもらい、整容も本人ができるように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、茶わん洗い、台拭き等できることを一緒にしている	利用者の好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限、代替食等に配慮したメニューで調理しており、利用者も包丁を使って食材の下処理を行ったり、配膳、テーブル拭き等を楽しみながら行っている。行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ等、食事が楽しみとなるよう工夫しているが、全員での外食や家族との会食は現在は控えている。口腔ケアも歯科医師の助言やプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	補食、補水で足りてない方に対応したり、栄養士に相談して必要な栄養が摂れるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは、訪問歯科に相談し、歯間ブラシ、スポンジを使用するなど本人にあったケアができるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるように、トイレ誘導している。必要なケースでは2名介助する。	利用者毎に排泄パターンを把握し、習慣にも配慮しながら声掛けや複数介助等で可能な限りトイレでの排泄を支援している。利用者の状況に応じた介護用品や方法を介護計画に反映させて取り組んでおり、便秘の予防に植物繊維の豊富な食材や水分の摂取、運動量等に配慮し、主治医にも相談しながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳、乳酸菌飲料、野菜摂取、体操、マッサージ等している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間帯は決まっているが本人の意見を聞いて、時間、日をずらしたり対応している	基本週2～3回の入浴を計画しているが、計画に拘ることなく利用者の意向に沿って温度や時間、習慣、同性介助、好みのシャンプー等を柔軟に対応し、個浴でゆっくり楽しんでもらっている。排泄時の汚染等には、その都度、シャワー浴等で清潔を保っている。入浴をためらう利用者には、時間の変更や声かけ等を工夫して、利用者自身の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子を見て静養を促すなど、本人のペースに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変更したときは、いつもと違う様子があるかなど気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事をすることで本人が役割を自覚し、率先して取り組む姿が見られる		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出が難しいが、コスモスを見に行ったり、家族がドライブに連れていく利用者もいる	日常的に園庭やホーム周辺の散歩等を楽しんでいるが、現在は新型コロナウイルス感染予防に配慮して、買い物や外出、外泊については控えてもらっている。また地域のイベントの多くが中止され、ホームの行事計画も充分には実施できない状況であるが、人出の少ない公園等にドライブしての花見（桜やコスモス等）や弁当を持参したり、園庭での隣のユニットの利用者との歓談、野菜や花の植え付け及び収穫等、工夫して気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭の管理は施設でおこなっているが、買い物に行ったときは本人が会計している方もいる</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族から電話があり話ができる方もいるが、本人から希望があっても、家族の都合で電話できない方もいる</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節が感じられるよう壁面作りを一緒にしたり、動線に物を置かないようにしている</p>	<p>利用者が昼間の殆どを過ごすリビングは明るく、余裕あるスペースが確保されており、動線や利便性に配慮してテーブルやテレビ、ソファ等を設置している。随所に活花や利用者の作品（書初め、今年の抱負等）、季節感のある貼り絵等が飾られて和やかな雰囲気となっている。園庭には多種の木や草花等が植えられテーブルとベンチも備えてあり、利用者間の交流の場になっている。清掃や空調、換気、衛生管理等を徹底し、不快に感じる音や臭いもなく、利用者は四季を感じながら平穩に過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>本人の居室で過ごしたり、共用空間の中でも本人がいる場所の選択ができています</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた調度品を使用したり、ご家族の写真、手紙が飾ってある</p>	<p>各居室は畳敷で入口には1畳位のフローリング部分が設けられており、腰高窓で明るく、エアコン、ベッド等が備えられ、また利用者の心身の状態に応じて洗面台や手すりが設置されている居室もある。利用者の意向に添って整理整頓等を支援しており、利用者は使い慣れたテレビや寝具、家族写真、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品等も飾って、居心地良く過ごせる環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立支援できるように、声掛け、誘導したり危険な時は注意して見守っている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	3	1 ほぼ全ての利用者の
		1	2 利用者の2/3くらいの
		2	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	4	1 毎日ある
		1	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
		1	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	2	1 ほぼ全ての利用者が
		3	2 利用者の2/3くらいが
		1	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	2	1 ほぼ全ての利用者が
		3	2 利用者の2/3くらいが
		1	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		2	2 利用者の2/3くらいが
		2	3 利用者の1/3くらいが
		2	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	3	1 ほぼ全ての利用者が
		3	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	3	1 ほぼ全ての利用者が
		3	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	2	1 ほぼ全ての家族と
		4	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		6	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		5	2 少しずつ増えている
		1	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		5	2 職員の2/3くらいが
		1	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1	1 ほぼ全ての利用者が
		5	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	3	1 ほぼ全ての家族等が
		3	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない